

### 問3

#### ① 貴児童館が取り組んだことについて、下記から選択してください。【複数選択可】

- ・ オンラインでの遊び等の配信
- ・ オンラインでのイベントの実施
- ・ 電話や SNS 等での相談対応
- ・ 図書や遊具等の貸し出し
- ・ 地域の巡回
- ・ 放課後児童クラブの支援
- ・ 出張児童館
- ・ 職員の研修や開館に向けての準備

#### ② 選択した項目それぞれについて、実施内容の詳細や子どもの反応、現場で実感した事業の意義や効果について記入してください。

「職員の研修や開館に向けての準備」(58%)
------------------------

##### 開館に向けての準備に取り組んだ。

- ・ 遊具や環境を整備し、模様替えを行った。すべり台など大型の遊具やパネルシアターを作成した。
- ・ 清掃・消毒を実施した。
- ・ 開館時の対応を整理した…来館者の動線、入館時の確認事項（検温、手指消毒、マスク、県外移動歴等）、人数・利用時間の制限等。

館内の環境を整えた…各室の利用人数の設定、活動内容や感染症対策を踏まえた新しい来館ルールを作成した。また、感染症対策に関する啓発ポスターも掲示した。

- ・ 3ヶ月弱もの間休館だったので、開館中はできない修繕や清掃、職員の研修等を行うことができた。職員は出勤していたため、児童館周辺を通行する親子連れや小中学生、地域の方達からたくさん声を掛けられた。中学生はフェンス越しに話すだけでも嬉しそうだった。「児童館に行きたい！」と泣いて訴える幼児に保護者が一生懸命説明してなだめている光景があったり、「お外からちょっとだけ先生に会いに来ました！」と大きな声で呼んでくれる声があったりして、児童館の必要性を改めて感じることもできた。

##### 日頃できない研修等を実施した。

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策について職員研修を実施した。
- ・ 職員同士で児童館の役割について改めて話し合い、再確認することができた。
- ・ 日ごろ気になりながら実施できずにいた職員間での研修や様々な表示等のリニューアルをやることができた。また、今後の開館に備え、感染拡大予防のためにできることを情報集し、職員間で検討、実際にロールプレイ等を行うことができた。
- ・ 市内5か所の児童館を、全児童厚生員と全館長がそれぞれ日を違えてすべて視察し、情報交換会をした。とても有意義な研修だった。他館の良い点を持ち帰り、自分の館でも実施することにした。
- ・ 「新人研修」「子どもを理解する～絵本から学ぶ子どもの世界～」「テーマ選択研修」「専門職の在り方を考える～映画で考える子どもに寄り添う大人の姿勢～」「基礎体力トレーニング」「語学トレーニング」を主に実施した。
- ・ 市内12の児童館の「あそび研究会」で、3密を避けた遊びの研修を実施した。

## 「放課後児童クラブの支援」(56%)

児童館の諸室を活用して臨時的放課後児童クラブを実施した。

- ・ 本来、放課後児童クラブを実施していないが、緊急時対応として小学校低学年児童を受け入れた。基本的には喜んでもらえたが、保護者の理解や平等性等について課題が残った。
- ・ 図書室を臨時クラブ室とし、児童クラブ登録児童の一部に移動してもらい、3密を避けた。

児童館職員が放課後児童クラブの支援に入った。

- ・ 放課後児童クラブのみ、利用制限を設けながら実施した。遊びがかなり制限されたうえ、長い場合10時間以上児童館に缶詰め状態で、子どもたちも職員もストレスはかなり大きかった。
- ・ 放課後児童クラブ併設の児童館であるため、児童館担当職員等がクラブ担当職員と連携して実施した。児童クラブでは伸び伸びと遊ぶことができ、職員の対応も丁寧であったため、子どもたちも落ち着いていた様子だった。

近隣の放課後児童クラブを巡回した。

- ・ 出張児童館として、近隣の放課後児童クラブ7箇所児童館で人気の遊びのプログラム数種類を持っていき、楽しんでもらった。子どもたちは新鮮な遊びに大いに盛り上がった。
- ・ 放課後児童クラブを巡回し、遊びの提供をしたり、子どもたちの話を聞いたり、職員の話の聞いたりした。保護者も含め、皆、不安を抱えて過ごしていたので、ゆったりとした気持ちで過ごせるように支援した。子どもたちはストレスを抱えているような状態だった。何か学べる事や体験できることを行うと、とても集中し楽しんでいる様子が見られた。

その他

- ・ 児童クラブや保育所に、工作キットを配布した。
- ・ 登録児童(67名)の自宅に「ぬり絵や工作キットなどの自宅遊びセット」を届けた。留守番を頑張っている子どもと利用自粛にご協力いただいている保護者それぞれにメッセージを同封した。

## 「電話やSNS等での相談対応」(22%)

電話相談を実施した

- ・ 乳幼児クラブに登録している保護者へ電話し、安否確認や相談対応を行った。
- ・ 子どもや子育て中の保護者を対象に、電話相談を行った
- ・ 電話相談では、外出できず人と話す機会がほとんどない保護者の方々から、「もっと話したい」というニーズの高さを感じた。
- ・ 電話相談窓口を開設したが、実際の相談はなかった。
- ・ 気になる家庭の児童には電話をかけ、元気であるか、保護者を含め家庭の暮らしの様子を聞き取りステイホームと激励の声かけを行った。予想以上に児童だけの留守番(保護者不在)が多く、食事がとれているか、生活習慣に乱れがないか気になった。
- ・ 今年の登録児童と気になる児童にはがきを送った(100枚)。はがきには職員の顔写真を入れ、「困った事があったら電話してね。開所になったら遊びに来てね。」のメッセージを添えた。

SNSで相談対応を実施した

- ・ SNSのライブ配信で、小児科の先生に子育て相談を実施してもらった。質問や悩みは事前に保護者から受け付けておいた。

## 「オンラインでの遊び等の配信」(13%)

### 工作や料理のレシピを公開した

- ・ 以前にイベントで実施した工作や料理のレシピを公開した。
- ・ ツイッターとインスタグラムで利用者へ呼びかけたり、施設の開館予定を配信したりした。利用者の方々は、フォローしてくれたりコメントを寄せてくれたりした。
- ・ 家庭でできる工作や遊び、クッキング等を HP に掲載した。また、ツイッターでも館内の様子等を発信した。日頃、児童館を利用している方だけでなく、幅広い方から反響があった。目に見える形(いいねの数)で反応があるのは、職員のモチベーションアップにつながった。また、今後の周知方法について考えるきっかけにもなった。

### 動画配信した

- ・ 簡単工作の動画配信を行った。
- ・ 以前関わったクリエイターの方々に協力してもらい、SNS で料理やマスクの作り方を配信した。
- ・ 児童館の Facebook で「サロン」を開設し、地域の方々に講師になってもらって、お家でできる様々な活動を紹介して頂いた。子どもたちからも保護者からも好評で、中には「ユーチューバーになりたいから、児童館に行く！」と騒いでいた子もいたらしい。落ち着いたら、子ども主体の活動に変えていこうと思う。
- ・ ホームページ上にさまざまな「記録に挑むかんたんゲーム」を掲載し、各家庭でそれらのゲームにチャレンジしてもらった。それぞれの記録はホームページのお問合せフォームから報告してもらうようにした。また、工作レシピをホームページ上に公開した。一部プログラムについては動画で作り方・遊び方を配信した。小学生はオンラインプログラムに参加できる環境が整っていない事が課題として明らかになった。

## 「地域の巡回」(12%)

- ・ 子どもの居場所の現状を把握することができた。
- ・ 地域の子どもたちに児童館オリジナルの「自然遊びキット」を配布しながら巡回し、様々な声を聴いて児童館としていまできることを考えた。
- ・ 地域を巡回し、主に保護者とのコミュニケーションを図った。困っていることを聞き取り、保護者の息抜きになるよう努めた。
- ・ 午前・午後に1回ずつ、職員2~3名が地域巡回を行った。公園を中心に回ったが、4月後半からは子どもたちが自分の家の前で遊ぶ姿が多く見られた。子どもたちや保護者からは「遊ぶ場所がない」「公園で遊んでいると嫌な顔をされた」「夫も家にずっといるので息がつまりそう」などの声を拾い、所管課に伝えた。児童館名の入った旗を持って巡回をしていたため、利用者ではない方からも声をかけていただく事があり、児童館の周知にもなった。5月中旬を過ぎると児童館の再開はいつかという問い合わせが多くなり、児童館への期待を感じる事ができた。地域巡回を行うことで、地域の様子を確認することができた。特に今年度配属された職員にとっては有意義であった。

## 「図書や遊具等の貸出」(7%)

### 図書を貸出した。

- ・ 市の図書館が閉館したため、図書の貸出が喜ばれた。
- ・ 児童館の外壁沿いに乳幼児向けの絵本を並べ、自由に借りてもらった。
- ・ 廃棄予定の図書を児童館の外に並べ、無償提供した。

#### 「遊びキット」を作り、配布した。

- ・ 「おうちあそびドリル」を作り、(児童館の外から)子どもたちが自由に受け取れる位置に設置した。
- ・ 児童館オリジナルぬりえを配布したところ、予想以上に人気だった。
- ・ 「工作キット」等を作り、子どもたちに窓越しに配布した。
- ・ 施設入口に「工作キット」を置いておき、子どもや保護者が自由に持ち帰れるようにした。
- ・ 県内の児童館・児童クラブ等を対象に「作って遊べる工作キット」を提供した(配布総数 約 12,000 セット)。職員からは「遊びのバリエーションがなくなってきたので大変有難かった」「子どもたちは作った工作で楽しく遊んでいた」などの声が多く寄せられた。【大型児童館】
- ・ 子どもたちが楽しめる遊びのネタを3種類詰めた「遊びキット」を作成し、希望する児童館・児童クラブに送付した。県内約3分の1の児童館・児童クラブから申し込みがあった。【大型児童館】

#### 「オンラインでのイベントの実施」(2%)

- ・ Zoom を利用して週1回程度、職員と乳幼児の保護者同士が子育てについて話し合う機会を設けた。
- ・ 乳幼児親子対象に「オンラインおしゃべりカフェ」を実施した。Zoom を利用して週1回程度、乳幼児の保護者同士が会話し、子育ての悩み等を職員と利用者同士が話し合う機会を設けた。児童館が閉館になり、新生児を持つ親同士の交流の場づくりが大きな課題だと感じた。
- ・ SNS や Zoom を使って、料理、ダンス、おもちゃづくりのイベントを実施した。どれも参加してくれた子どもたちには好評だった。参加型のイベントはいい刺激になったと思う。
- ・ オンライン夜間開館として、中・高校生世代や OB・OG 向けに、Skype を使用して「しゃべり場」を実施した。
- ・ 中高生対象に(試行的に)「オンラインカフェ BEGIN」を実施した。Zoom を利用して毎日決まった時間に1時間程度、中・高校生世代の子どもたちと会話をした。また、オンライン上でクイズ大会やボードゲーム大会、運動プログラムなども実施した。オンライン授業は始まったが、雑談する機会がなくてストレスがたまるという子が多かった。どんなことでもよいから、自由に話せる場が必要だと感想を述べていた。
- ・ 県議会選挙を目前に、「政治って何だろう?」というテーマで政治に関する素朴な疑問を子ども達が予定候補者に問いかけるイベントを、Zoom を使って実施し、生配信した。子どもたちからは「政治を身近に感じる事ができた」、視聴者からは「家族で見ました。子どもたちも飽きずに最後までしっかりと見ていました」という感想を頂いた。

#### 「出張児童館」(1%)

- ・ 近隣の公園にて「青空児童館」を実施した。
- ・ 地域の子育てサークルに絵本の読み聞かせで出向いた。親子で絵本を楽しむ姿や、久しぶりに会えた際の保護者同士の交流が見え、ストレス解消につながっていたのだと実感した。